

伝統的工業ではなく、近代的な重化学工業である。これは京浜工業地帯内部における工場用地取得の困難等から、その解決策として京浜工業地帯の外延的拡大がはかられ、内陸工業地帯として埼玉県域に工場進出が行なわれ、又、現在も行なわれつつあるため、東京都心から50km圏内にはほぼ包含される京埼地域がその中心である。埼玉県の市町村別工業生産額をみても、出荷額が500億円を越えるものはすべて京埼地域に集中しており、中でも国道17号線に沿った川口から浦和・大宮・上尾に至る地域が中心地域となっている。両市の工業を詳しくみると、浦和は食料品、精密機械が、大宮は電気機械器具、化学工業が伸びており、又、大宮より浦和の方が軽工業の占める比重が大きいなどの相違はあるが、秩父の織物や川口の鋳物等のように古くから形成された伝統的なものと異なり、日本経済の高度成長に対応し、東京の巨大な影響の下で形成されてきた新しい工業である点で共通している。

商業においても、両市に対する東京の影響の大きいことが第一にあげられる。大宮はその地理的位置や歴史的過程から、浦和よりは明確で大きな商圏を有しているが、それも東京の商圏と重なっている。両市の東京都内流出率は浦和約20%、大宮約15%で、金額のはる高級品ほど流出率が高い傾向がみられる。このため、両市では今まで高級品店や専門店があまり育たなかった。最近、ここに目をつけた中央資本が両市に相次いで進出したり、又、進出の計画をたてている。

以上のように、両市は主に戦後においては東京の膨張に端を発する県南地域の発展と相関して発展しており、その地理的位置及びその歴史過程から大宮の方が埼玉県北と結びつきが幾分強いとはいえ、東京の巨大な力の前に都市の性格としてほとんど差がなくなり、両市をあわせた地域が、首都圏の北部の一中心をなしていると考えられる。

## 千葉県茂原市の地理学的考察

——特に天然ガス利用による工業を中心として——

市 原 憲 子

本論文の調査地域となっている千葉県茂原市は人口48,411人で、九十九里平野南部に位置し、古くから六斎市が開設され、周辺農村の中心地として栄えてきた。その在郷町的性格から鉱工業都市としての歩みを始めたのは戦後のことで、特に本格的な内陸工業都市としての性格が強まったのは昭和30年のことである。本論文では、茂原市の工業を中心として、茂原市の地域的特色を把握することにした。

千葉県は天然ガスの産地として新潟県についているが、特に茂原市とその周辺地域は千葉県の中

にあって古くから開発された地域である。茂原市付近の地質は第三紀鮮新世に属すが、天然ガスは  
その中で国本層・梅ヶ瀬層・大田代層・黄和出層等の砂岩内のかん木と共存している。茂原市にお  
ける天然ガスの発見は慶長元年と伝えられるが、天然ガスが灯火用・燃料用として利用され始めた  
のは明治・大正年間のことである。昭和になり天然ガスの燃料源としての利用は増大したが、天然  
ガスが大規模に開発されるようになったのは化学原料としての利用が始まった昭和30年代のこと  
である。現在茂原市付近の天然ガスの開発は、関東天然瓦斯開発を中心にして行なわれている。日  
産4.18億 $\text{m}^3$ 、その86%は化学工業用原料として、残り14%は燃料用として使用されている。

茂原市の工業化は昭和10年に始まるが、本格的な鉱工業都市として発展するのは、日立製作所  
茂原工場、東洋高压（現三井東圧化学）千葉工業所の進出した昭和30年代である。前者は天然ガ  
スを燃料として使用し、東芝系の東京真空管などとともに多数の下請関連企業を成立させ、電子管  
工業の一大産地を形成している。後者は天然ガスを化学原料として使用し、硫安・尿素等の化学肥  
料を生産しているが、装置工業という性格から茂原市工業の中において、孤立した存在である。こ  
れら電子管工業と化学工業が茂原市工業の主力をなしており、昭和43年現在2工業の出荷額は茂  
原市全体の94%を占めている。特に前者は組立加工業という性格から多量の労働力を吸収し、全  
工業従業者数のうち80%程度を占めている。また、多数の下請関連企業を抱えているため茂原市  
への影響は極めて大である。従って電子管工業の浮沈が茂原市工業全体を大きく左右しているとい  
える。

このような状況を打開するためには中小企業の強化、新企業の誘致が考えられる。しかし、中小  
企業の強化策の一つでもある新企業の誘致は、広大な工場用地、豊富な労働力、天然ガスというか  
つての立地条件は消滅しつつあることから困難である。茂原市工業の現在以上の拡大・発展は難し  
いと思われる。従って茂原市発展のためには、新しい方向が見い出されるべきであろう。

## 宮城県多賀城町の都市地理学的考察

齊 藤 和 加 子

### 1 はじめに

本論文では、複数的要因に基づいて都市化の進展したと考えられる多賀城町の実態を明らかにし  
ようとした。

人口を中心として地区ごとの発展の状態を調べ、地区を分類し、商店の分布から各商店集中地区